

米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

[米国農務省動植物検疫局通知 DA-2025-48 2025年11月25日](#)

件名: カリフォルニア州におけるカンキツグリーニング病(HLB)の検疫規制地域の拡大について
宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、カリフォルニア州食品農業局(CDFA)と協力し、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病(黄龍病; HLB)の同州内の検疫規制地域を拡大し、本措置は直ちに発効する。拡大される地域は、オレンジ郡カピストラノビーチ地区の29平方マイル及びリバーサイド郡マリエタ地区の129平方マイルである。これらの措置は、CDFAが2025年10月22日に定めた州内の検疫と並行して実施される。APHISは、オレンジ郡及びリバーサイド郡の住宅地から採取された植物組織サンプルからカンキツグリーニング病が検出されたため、この措置を講じるものである。この拡大の影響を受ける商業的柑橘類園地はリバーサイド郡の170エーカーである。

APHISは、連邦規則集第7編第301.76条及びカリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動にかかる複数の連邦命令に概説されている保護措置を適用している。これは、HLBが米国内の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)に掲載されている。APHISは、おってこの変更を連邦官報に掲載する。(連絡先等省略)

(訳注: 1平方マイル=約2.59平方キロメートル、1エーカー=約0.405ヘクタール)

北半球の柑橘類生産量予測は1.51%の減少

[FreshPlaza 2025年11月26日](#)

世界柑橘類機構(WCO)は、総生産量を2,739万7,239トンとする2025-26年度シーズンの北半球柑橘類見通しを発表した。これは2024-25年度シーズンに比べて1.51%の減少であり、過去4シーズンの平均に比べて5.13%少ない。この予測は、エジプト、ギリシャ、イスラエル、イタリア、モロッコ、スペイン、チュニジア、トルコ、ポルトガル及び米国のデータに基づいている。

輸出量も前シーズン比で0.81%減少し、4年平均との比較では8.25%減少すると見込まれている。

欧州連合(EU)最大の柑橘類生産国であるスペインは9.72%減の559万トンと予測しており、これは4年平均を11.20%下回る。イタリアは6.12%減の300万トン、ギリシャは1.58%減の123万トン、一方ポルトガルは14.20%増の38万トンを見込んでいる。

非EU地中海諸国では、エジプトが13.85%増の495万トンで最も多い。トルコは前シーズン比10.83%減、4年平均比15.31%減の442万トンと見込まれている。モロッコの実産量は前年並みの209万トンと予測されている。イスラエルは24.12%増の53万トン、チュニジアは3%減の37万トンと予測されている。

米国農務省(USDA)の年次予測は政府閉鎖のため遅延しており、初期の見通しではカリフォルニア州及びフロリダ州の柑橘類生産量は4.53%増加し485万トンに達するとされているものの、更新が待たれる。

品目別では、オレンジが2.16%減の1,386万トンで総生産量の51%を占めると予測される。ソフト柑橘類は5.91%増の851万トン、レモンは12.38%減の423万トン、グレープフルーツは1.17%微増の79万トンと予測されている。

世界柑橘類機構は、2026年4月に南半球の実産量及び輸出入の見通しを発表する予定である。

詳細は世界柑橘類機構(World Citrus Organisation)へ